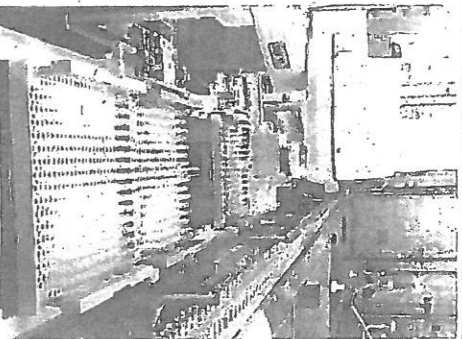


### 注射器にバイオ医薬充填



フエッターアーツは注射器へのバイオ医薬剤の充填を専門としている

ドイツの医薬品製造委託大手、フエッターアーツは日本の製薬会社に対し、バイオ医薬剤の注射器への充填サービスを始め、同社が工場を持つ独、米国で充填業務を請け負い、日本薬の海外でのバイオ事業を支援する。東京都内に今月、日本法人を設立して営業を始めた。国内では今後、研究開発拠点を設立も検討していく。

## 海外販売を支援 独米工場で生産

# 独「フエッター」、日本開拓

フエッターアーツは注射器の製造工程の中で、注射器に薬を入れる業務に特化して受託している。異物が入らないよう無菌状態で作業する高い技術が必要だ。薬の粘り度が高く取り扱いにくいシック・アケインク製品や、温度管理が難しいを担当するマケル・フ

製品に実績がある。2014年の世界売上高は4億2000万円(約30億円)。日本の製薬会社は海外で注射器を販売する機会が多い。現地で外部委託する費用の安さや技術力を訴え、今月12日に東京・港に設立した日本法人で営業を始めた。事業拠点は独を含め4カ国となる。

同社は開拓を狙っている分野は、微生物や動物細胞を培養して作るバイオ医薬だ。日本の製薬会社は、欧米勢に比べ遅れていた。米勢に比べ遅れていたバイオ医薬の開発を急いでいる。独本社でストラック・アケインク製品や、温度管理が難しいを担当するマケル・フ

エックナー氏は「日本は大(億円)を投じる計画。日研究開発拠点の開設を、金策だけでなく、バイオ分野のベンチャーもある。事業環境は整っていないとみている。日本の製薬会社では、イ・ス・ロジエ傘下の中外製薬などがフエッターアーツと取引していたが、規模は小さい。日本法人では3、4年後に年間数十億円の売上高を目指すと、今、日本から輸出することをどうするか。

フエッターアーツは14年からの約5年間で世界で3億円(約400

本では法人設立以外に、野村證券(朝田賢治)を